

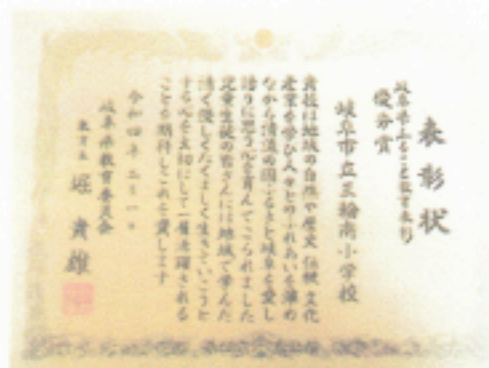
共に創る 学校・地域の未来

今年度も、新型コロナウイルス感染症の猛威が、子供たちの生活にも大きな影響を与えた一年でした。

コロナ禍であっても、三輪南小学校では、地域とともにある学校づくりを目指してきました。学校運営協議会と支援推進委員会（学習支援部会、安全・安心部会、地域活動部会）を開催し、「新型コロナウイルスなのでできないではなく、なんとかできないか工夫してやる」という学校の方針を受けて、いろいろな場面でサポートいただきました。

三輪南地区の自然・歴史・文化について学び、地域の素敵な人たちと積極的に関わることで、子供たちは地域の魅力を発見し、ふるさとへの愛情や誇りを実感していくと思います。

岐阜県教育委員会より 地域との連携を認めていただき
令和3年度「岐阜県ふるさと教育表彰『優秀賞』」を受賞しました。



子どもに「ことば」のちからを

三輪南小学校学校運営協議会
会長 安藤 征治

「ことば」は、人と人をつなぐコミュニケーションの道具です。また、人は「ことば」を使って考える動物です。ことばの豊かな子どもは、人に優しく接したり、物事を深く考え、思慮深くなったりするものです。「ことば」のちからとは、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことによって育ちます。

これらは学校教育の中で、意図的・計画的に指導されますが、学校まかせにしないで、家庭や地域において、子どもの周りにいる大人たちが心がけることが大切です。

具体的には、日常生活の中で「子どもによく話しかけること」や、「子どもの話をよく聞くこと」、「新聞や本を読んだり、日記や手紙を書いたりする姿を大人が示すこと」により、子どもにもそうした習慣化を図ったりすることです。

それぞれの家庭や地域を挙げて、こうした取組をすることが、子どもに「ことば」のちからをつけることにつながります。

コミュニティスクールとは、家庭や地域が学校と連携して子どもの教育に当たる「しくみ」です。本学校運営協議会として、子どもに「ことば」のちからを育てることを意図して取り組んでいきたいと考えています。



三輪南小学校 校長 小野木 義浩

本校は、教育目標「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」を掲げ、「来るのが楽しくなる学校づくり」、「自分で・自分たちで考え、行動できる力の育成」を合い言葉に、家庭や地域社会との連携・協働による教育活動の充実に努めてきました。

保護者アンケートから、本年度の成果と課題を次のように捉え、次年度の教育活動の改善に生かしていきたいと考えています。

成果：充実してきた内容

〔「保護者アンケート」結果集計からの抜粋〕

	内 容	「よくはてはまる」「あてはまる」と回答した割合		
		R3	R2	UP
4	子供は楽しく学校に通っている。	92	90	+2
7	子供は健康安全に関する基本的な習慣や新しい生活様式を身に付け、落ち着いた学校生活をしている。	87	85	+2
16	学校は、子供たちが安心して生活したり、学習したりできるように、新型コロナウイルス感染症予防対策をしている。	96	93	+3



【ひびきあい集会】
ぼかぼか言葉がいいな。

<丁寧な新型コロナウイルス感染症対策と「やれることを工夫して」>

未知なる新型コロナウイルス感染症への対応を始めて、約2年。子供たちは新しい学校生活様式にも少しずつ慣れ、「マスクの着用」や「黙食」、「ノー密」、「手洗い・消毒」、「換気」など普通に行うようになりました。毎朝の検温や健康チェックもご家庭の協力のおかげでスムーズに行っています。今後、やり方や内容にさらなる工夫をしていきますが、リモート学習がどの学級でも普通に行われ、万一の場合でも「学びを止める」ことはなくなりました。コロナ禍であっても、外部講師との連携を積極的に行い、リモートでの実現をし、子供の学習をより充実させることができました。

今後も、「制限があってできない」ではなく「工夫してやってみる」の方針で教職員一同取り組んでいきます。それも、学校に来る楽しさにつながっていくと感じています。

<一人一人の子供が、学校に来る「楽しさ」を味わえるように>

昨年度同様に、保護者の皆さんの多くは、「子供たちは楽しく学校に行っている」と感じていると評価していただきました。しかし、現在、「あまり楽しくない」「楽しくない」と感じている8%の子供たちを見逃してはいけません。今まで以上に、子供達一人一人に目をやり、寄り添っていくことが必要であると改めて感じています。8%の子供達が「学校に行くのが楽しい」に変わっていくように全力を尽くしていきます。

課題：今後充実させたい内容

	内 容	「よくはてはまる」「あてはまる」と回答した割合		
		R3	R2	DOWN
5	子どもは夢をもって、学校生活している。	66	76	-10
8	子供は仲間と学習することを大切にし、自分の考えを伝え合う態度や表現する力を高めている。	77	81	-4
15	学校は、いじめ問題や命の大切さに重点を置いて取り組んでいる。	85	91	-6



【ふるさと
ウォークラリー】

【勾玉づくり6年】

<どの子も「夢」をもって生きていくことができるように>

本校に限らず、日本の子供たちは「夢」を持っていないと言われていました。本校の子供たちが、「夢」をもって感じる割合が減った結果は重く受け止めています。子供たちは、どちらかといえば、大人の指示を待ち、言われたことをやる傾向が強いです。人に言われてやるのではなく「自分で・自分たちで」取り組み、充実感を得るといった体験をたくさん味わえるようにすることが大切です。それが、次へのエネルギーを生み出します。子供たちは意欲的になれば目標ができ、それが一人一人の「夢の種」になると思います。

そして、何より、子供たちの周りにいる、わたしたちを含む多くの大人が、夢をもって生き生きと生きる姿を「生き方モデル」として子供たちに示していくことも必要です。

<命の大切さ自分のこととして考えられる子供を育てていきます>

本校でもいじめ問題は起こります。その中で、最優先課題として位置づけ、すぐに・適切に対応していきます。日頃から子供の様子や表情、言動に対してアンテナを高くして、早期にいじめの芽を発見し、チームで対応することができる教職員のセンスや意識を磨いていきます。命の大切さや相手を思いやる心を育てるために、学校・家庭・地域で同じ方向を向いて子供の心に落ちるように粘り強く働きかけていきたいです。

令和3年度 支援推進委員会（3部会）活動報告

学習支援部会

<豊かな学びを創る>

<学力向上>

- コロナ禍ではあるが、岐阜女子大学の学生との関わりを子どもたちは楽しみにしている。学生にとってもよい経験である。米作り講座・租税教室・書道指導など
- 朝活動の「脳トレ」を継続。
- 地域の人材を積極的に授業で活躍していただく。総合的な学習の時間の充実のために3年生「地域の名人」、6年生平和教育「岐阜空襲の話」「法の教育」「白川郷の話」2年生生活科「地域探検」サポートなど。

<稲作・野菜づくり>

- 貴重な体験。学習の目当てや食育との関わりを明らかにして取り組む必要がある。コロナ禍の「野菜づくり年間の計画」を作成。

<ふるさと学習>

- ふるさとの愛情をもち、自分から地域を調べようとする子が育ってほしい。ふるさとの自然や歴史、人を積極的に活用する視点を大切にしていこう。「ふるさと大好き作品展」の継続と充実。



【岐阜女子大学書道指導】



【地域の弁護士さんによる法の教育の授業 6年】

安全・安心部会

<自分の命は自分で守る>

<通学路の安全対策>

- 青パト活動等で通学路周辺の安全を見守るとともに、ブロック塀や石垣、用水路等の危険性の把握と対応に努めた。
- 見守り会のメール登録を積極的に進め、柔軟な見守り体制づくりを強化した。

<防災教育>

- 子供たち自身が、地域の一員としての役割を自覚するきっかけをつくった。また、自分の命は自分で守るために多様な「命を守る訓練」を実施した。

<子ども安全サミット>

- 警察・消防と連携し、安全な夏休みを送るための講座を実施した。また、七夕にあわせて安全宣言やいじめのない気持ちのよい学校生活を願う短冊を飾った。

<不審者対応>

- 不審者情報の活用や緊急連絡メールへの関係者登録による情報共有を推進した。



【子ども安全サミット】

地域活動部会

<多様な人々と進んでかかわり合う>

<まちづくり協議会・公民館・老人クラブ・岐阜女子大学等との連携>

- ふるさとウオーラリーは、子供たちは縦割りのグループで活動した。6年生のリーダーシップのもと、地域の神社や施設を回り、地域の方々やゲームを通して触れ合うことができた。好天にも恵まれ、ふるさとの素晴らしさを見たり、身近な大人の温かさを感ずるとともに日頃からお世話になっていることへの感謝を明るい挨拶や笑顔で伝えることができる良い機会となった。

<放課後チャイルドコミュニティ・読み聞かせ>

- 放課後子供教室「どんぐり」では、新型コロナウイルス感染予防に気を付け、活動を工夫して実施することができた。希望者を全校児童に広げたことで、30名ほどの参加者となった。様々なボランティア講師による楽しい体験活動は子供たちに好評で、回数が少なかったことが残念であったものの、終了まで手こぎで実施した。
- 読み聞かせ「コロポックル」では、11月、12月の2か月間の実施となった。新しいメンバーも加わり、採集部の整備などをすすめるボランティア活動も始まった。メンバーの男女比率を学校や公民館で配布し、来年度はさらに活動していくことができることを目指すつもりであった。



【ふるさとウオーラリー】

第4回ふるさと大好き作品展～ふるさとを探究し、ふるさとへの誇りと愛着を育む子が増えてきました～

＜最優秀賞＞



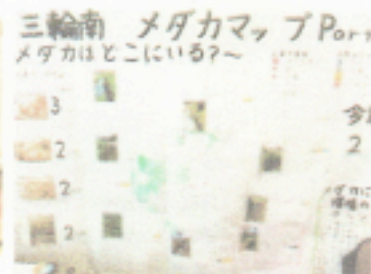
「みわみなみのじんじゃちず」
2年 岡山 碧有斗 さん
＜低学年の部＞



「横立山 船国寺 三十三番観音像マップ」
3年 宮脇 絆 さん



「岐阜市の宝物
～美しい天然記念物を訪ねて～」
4年 河合 羅 さん



「メダカマップ パート6」
6年 深尾 和弘 さん

＜中学年の部＞

＜高学年の部＞

＜優秀賞＞



「ほくのいえのちかくの 在来種と外来種」
2年 中村 駿太 さん



「ほくの地域の防災マップ」
4年 林 蒼麻 さん



「三輪地区の神社・寺マップ」
6年 前平 悠衣 さん



「ゴミを捨ててもっと三輪南をきれいに & ほくたちの通学路調べ 気付いたこと」
6年 吉川 颯太 さん

＜努力賞＞

＜みなみっこ賞＞

- 「三輪の壘山」 3年 高橋 遥太 さん
- 「SDGs ステンドグラス わたしのふるさと三輪南」 3年 渡邊 心結 さん
- 「三輪南地区のお寺」 6年 小林 直翔 さん
- 「三輪南信号3作品」 6年 藤田 結人 さん



- 「むぎがわのいしころちょうさ」 1年 大西 結和 さん
- 「三輪のお寺めぐり」 3年 小林 友樹 さん
- 「三輪南小学校（模型）」 3年 澤井 鏡希 さん
- 「三輪南すごろく」 4年 村瀬 太一 さん
- 「白山神社の大きなスギ」 4年 北川 琴浩 さん
- 「わたしの好きなお地ぞうさま」 4年 紺谷 実悠夏 さん
- 「三輪南すごろく」 4年 武藤 快征 さん
- 「地域にあるゴミと環境ゴミ問題」 5年 深尾 鏡希 さん
- 「三輪南地区パズル」 5年 山田 怜依 さん
- 「ピクトグラムは世界の言葉」 5年 深尾 悠生 さん
- 「三輪の医療機関」 6年 北川 大嵩 さん
- 「夏の絵」 6年 井口 実優 さん
- 「三輪の空と風景」 6年 宮川 未侑 さん



- 相談会（7月）
- 審査会（10・11月）
- 1次 歴史を知る会・教職員審査
- 2次 学校運営協議会
- 表彰式（11月）

今年で4回目を迎えるふるさと大好き作品展です。毎年、作品の質が上がっているように感じます。特に、よいと思う点は、①作品に、取り組んでわかったことを裏付ける「根拠」があること。②取組の過程がわかるようにまとめてあること。③まとめ方に工夫が見られること。そして何より、④家族で・親子でいっしょに取り組んでいることがよくわかることです。

ふるさと大好き作品展がきっかけにふるさとを大切にすることが増えていくことを楽しみにしています。



ふるさと大好き
作品展審査委員長
松田さんのお話

発行/令和4年3月18日 岐阜市立三輪南小学校学校運営協議会

〒501-2577 岐阜市太郎丸1034 ☎058-229-1013

回覧協力/三輪南自治会連合会・各地区自治会